

報告

高校生天体観測ネットワーク全国フォーラム 2006 報告

高校生天体観測ネットワーク運営委員会
直井 雅文（埼玉県立越谷北高等学校）

5 回目となる高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) の全国フォーラムが 3 月 26 日 (日)に行われました。天文学会年会が和歌山大学で行われるのにあわせて、会場は和歌山市郊外にある休暇村紀州加太でした。ここからは瀬戸内海を見下ろし、淡路島も間近に見ることができ、フォーラムの休憩時間毎に海が望めるテラスに多くの参加者が集まってきました (図 1)。

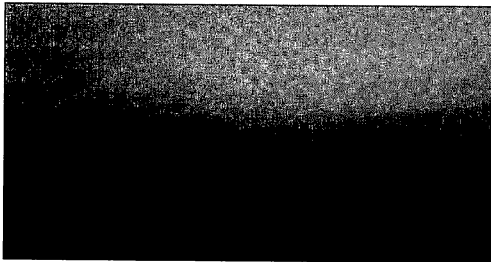


図 1 会場からの眺望
(撮影：松本直記氏、以下すべて同じ)

参加者は、北海道から九州まで、高校生・一般の参加を含めて約 130 名で、会場は満席となりました (図 2)。



図 2 フォーラム会場の様子

開会行事の後、兵庫県立西はりま天文台の時政典孝氏から「太陽の虹に何が見える」、九州大学山岡均氏から「超新星は楽し」とい

うタイトルで特別講演がありました。

Astro-HS の活動に関する発表の後に、参加校による発表 (口頭 15 件、ポスターのみ 6 件) がありました (図 3)。流星やスプライトの観測結果、参加校の活動報告などが中心でしたが、兵庫県立有馬高等学校から報告された「光害が農作物に与える影響」は、Astro-HS が取り組んでいる夜空の明るさ調査との関連もあり、とてもユニークな内容でした。また、翌日の天文学会ジュニアセッションでも発表する高度な内容のものもあり、バラエティに富んでいました。

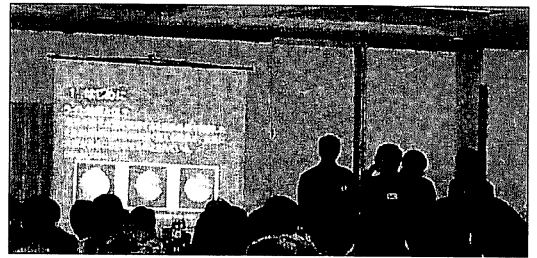


図 3 参加校の発表の様子

参加校の発表の後は、参加グループからの 1 分間スピーチでした。このとき進行役を担当したのは、Astro-HS の OB や OG を含む学生の皆さんでした。こうした若い世代の進出に大いに期待したいと思います。

今回は宿泊場所がフォーラム会場と同じでしたのでナイトセッションも盛り上がり、指導者にとってはよい交流の場になりました。しかし高校生が集まることのできる場所がなく、もっと交流できるようになればという感想が多くありました。

全体としてとても充実した内容で、次回が楽しみになるフォーラムでした。